

# 金剛寶戒寺便

<https://www.houkai-ji.jp>

令和六年八月一日発行 第二二五号

檀信徒の皆様、こんにちは。暑中お見舞い申し上げます。例年以上の暑さを感じています。皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか。食事と睡眠に気を付けてこの酷暑を乗り切りましょう。

さて、私事ですが今年度より大分市の仏教会会長を拝命いたしました。年末の托鉢などは戦後より続いており、県内でも指折りの慈善団体です。しかしながら、それぞれの会員が各寺院の住職であり、各々の仏教的思想を一番としているので、思想的な統一を取るには難しいところです。また、一度会長に就任すると長年に渡り勤める事となり、それが意見の吸い上げなどを妨げられているという声も聞きました。先代の住職も会長を務めました。やはり十年以上の任期となってしまうかもしれません。決して会長職に固執しているのではないのですが、一度受けてしまうと慣例の様

に任期が長くなってしまう。そこで、私が会長職を受ける際に、臨時総会を行い規約や任期の見直しを行いました。任期は一期二年で二期までとなりましたので、会長を務める住職が劇的に増えると思いません。また規約の目的に「仏法の興隆を目指し（仏教の教えを広め、その精神が社会全体に広がる事）」との一文を入れることが出来ました

ので、これまで以上に意思の統一は取りやすくなるのではないかと期待しています。副会長として支えて下さる大智寺のご住職様は私よりも四歳年下ですが、とても優秀な方で逆に学ぶことが多いです。宗派を超えて親睦を図り、学んだことを自坊にも活かさせていきたいと思っています。何よりも伝統ある大分市中央仏教会の活性化を願っています。

その様なこともあり、七月の講習会は他宗派のことを皆様と共に学びなおしたいの思

いから「日本の十三宗派」についてお話をいたしました。同じ関西、同じ古都でも京都と奈良ではどこか違います。その一つにお寺の建物の様式が挙げられます。同じ仏教でも日本に入ってきた時代が異なるので伽藍の様式などが異なるのです。聖徳太子の時代に伝わったとされる仏教は当初、一般の民衆への布教は禁止され、天皇や貴族たちの学問としての色合いが強かったことは余り知られていません。そして政治への介入も強く、それを嫌がった桓武天皇が中央集権体制を確立するため、奈良から京都への遷都をしたと考えられています。また、僧侶も今の国家公務員の立場で、急に増やしていく必要もあつたのですが、授戒を行える高僧がいなかったために、請われて唐（現在の中国）から日本にやってきたのが鑑真です。

鑑真は暴風や海賊などに襲われ五回の渡航に失敗をしています。その間に視力まで失う困難に直面をしました。六度目の渡航で日本へたどり着いた鑑真は、東大寺などに戒壇を設け天皇や貴族などにも授戒を行い、律宗を広め唐招提寺を建立しました。

最後に鑑真の名言をご紹介いたします。最後に鑑真の名言をご紹介いたします。「一を聞いて十を知るよりも、一を聞いて一を実行すべきである。」私にも経験がありますが、準備段階として多くの資料などを集め、それだけで満足してしまう事はありませんか？しかしそれだけではまだ何も実現はされていません。度重なる困難を克服した鑑真和上だからこそ重みのある言葉です。

- 八月十四日（水曜日）六時三十分から  
当山並びに上野の森納骨堂の合同供養
- 八月二十一日（水曜日）十六時から  
千巻心経
- 八月二十一日（水曜日）十九時から  
供養盆踊り

- 九月八日（日曜日）十四時から  
法話の会「日本の十三宗派（後半）」
- 九月十一日（水曜日）十三時から  
令和六年度巡回ご詠歌講習

\*いずれも会場は金剛宝戒寺です。

七月に行われた総代会議で樹木葬の建設が承認されました。詳細は九月の金剛宝戒寺便りでご紹介いたします。